



筑波大塚チャレンジスポーツプロジェクトの取り組み

国立大学法人筑波大学（筑波大学附属大塚特別支援学校）

照会先：筑波大学企画推進課大学連携・外部資金担当（宇留野）

fk.kyoren@un.tsukuba.ac.jp

活動の概要

スポーツ庁
Sports Agency

スポーツ庁委託事業
「Specialプロジェクト2020(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業)」
Special Project 2020
実施期間: 2020年9月～2021年3月まで

大塚ランニングサークル
ORC
月1回、第2日曜日
主に午後
皇居周辺

大塚ドッチビークラブ
ODC
月1回、第4日曜日
10:00～12:00
本校 体育館

大塚卓球クラブ
OTC
月1回、第3金曜日
14:30～
本校 体育館

・ 知的障害のある子どもたちと、共にスポーツを楽しんでくれる仲間、スポーツを指導してくれる方を探しています。

・ 3つの活動全てでも、好きなものだけでも構いません。

・ 参加者には、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、事前の健康観察をお願いします。

筑波大塚チャレンジスポーツプロジェクト
Tsukuba Otsuka Challenge Sport Project

・学校を拠点とした3つのクラブ活動の実施

・生活にスポーツ活動を定着させ、余暇の満足度を高める。

・知的障害のある方々へスポーツ指導をする際の簡易マニュアル作成の試行（必要な情報收拾）

表1 今年度の登録者（重複あり）

クラス	本人 きょうだい 卒業生	保護者 ボランティア
プロジェクト全体	43	47
ランニングサークル	24	33
卓球クラブ	22	9
ドッチビークラブ	26	21



大塚ランニングサークル

- ・知的障害特別支援学校の多くで取り組まれている。
- ・場所・時間・道具の制限が少なく、比較的気軽に取り組める。
- ・継続して取り組むことで、体力や健康の増進に大いに効果が期待できる。

	9月 (プレ)	10月	11月	12月	1月	2月
参加者	4	16	23	20		
ボラ 保護者 指導者	8	23	36	23		



大塚卓球クラブ

- ・オリンピック・パラリンピックの正式種目であることから知名度が高い。
- ・卓球バレー、ごろ卓球、卓球というように参加者の人数や運動能力・技術に応じてルールや道具を工夫しやすい色々な楽しみ方ができる競技である。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
参加者	17	21	22	22	14	14
ボラ 保護者	13	21	20	23	6	8



大塚ドッチビークラブ

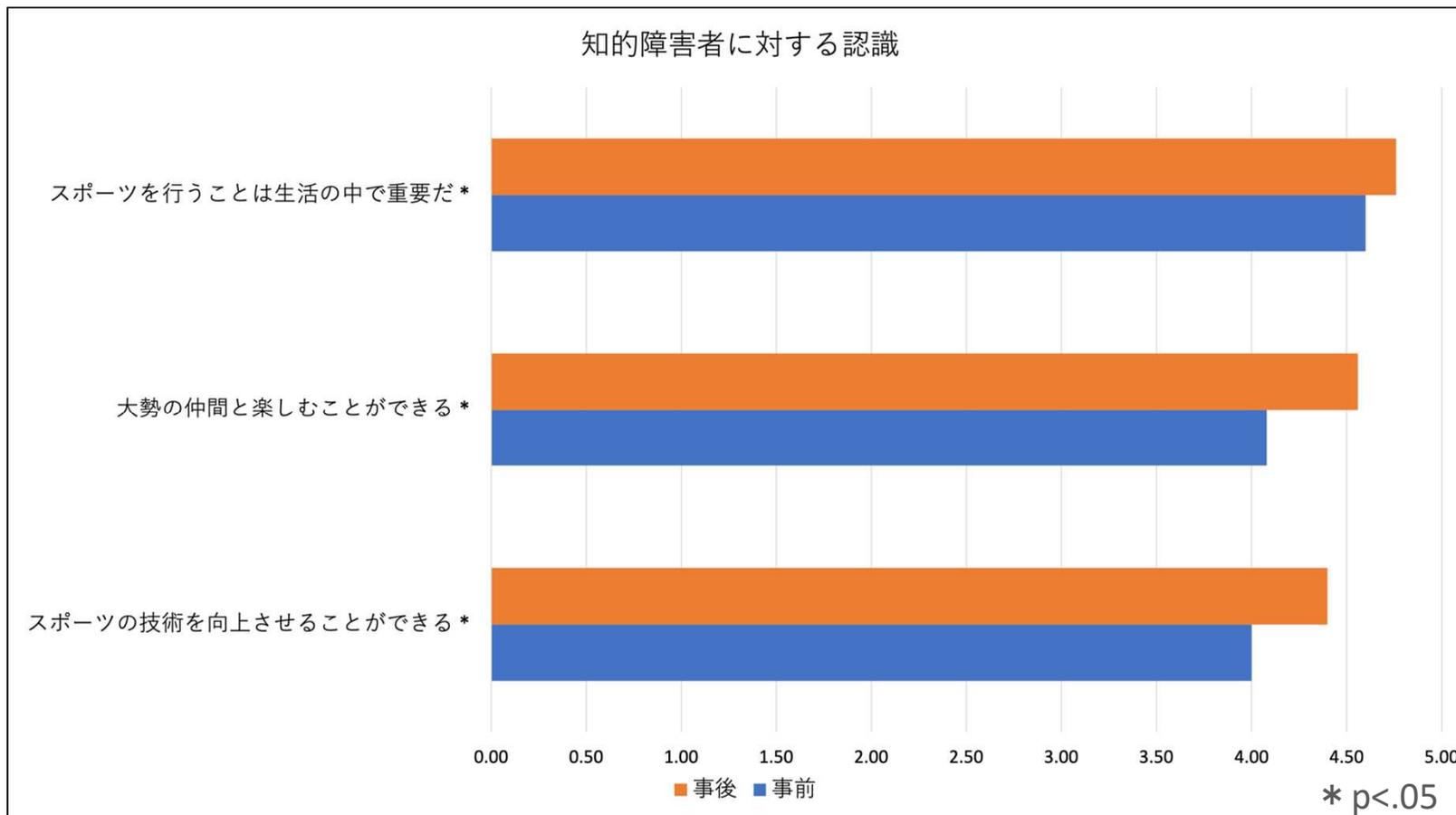


- ・簡単なルールのある集団スポーツである。
- ・怪我が少ない一方で、短時間で運動量を確保できる種目である。
- ・全国障害者スポーツ大会の正式種目であるフライングディスクへ、発展的に取り組める。

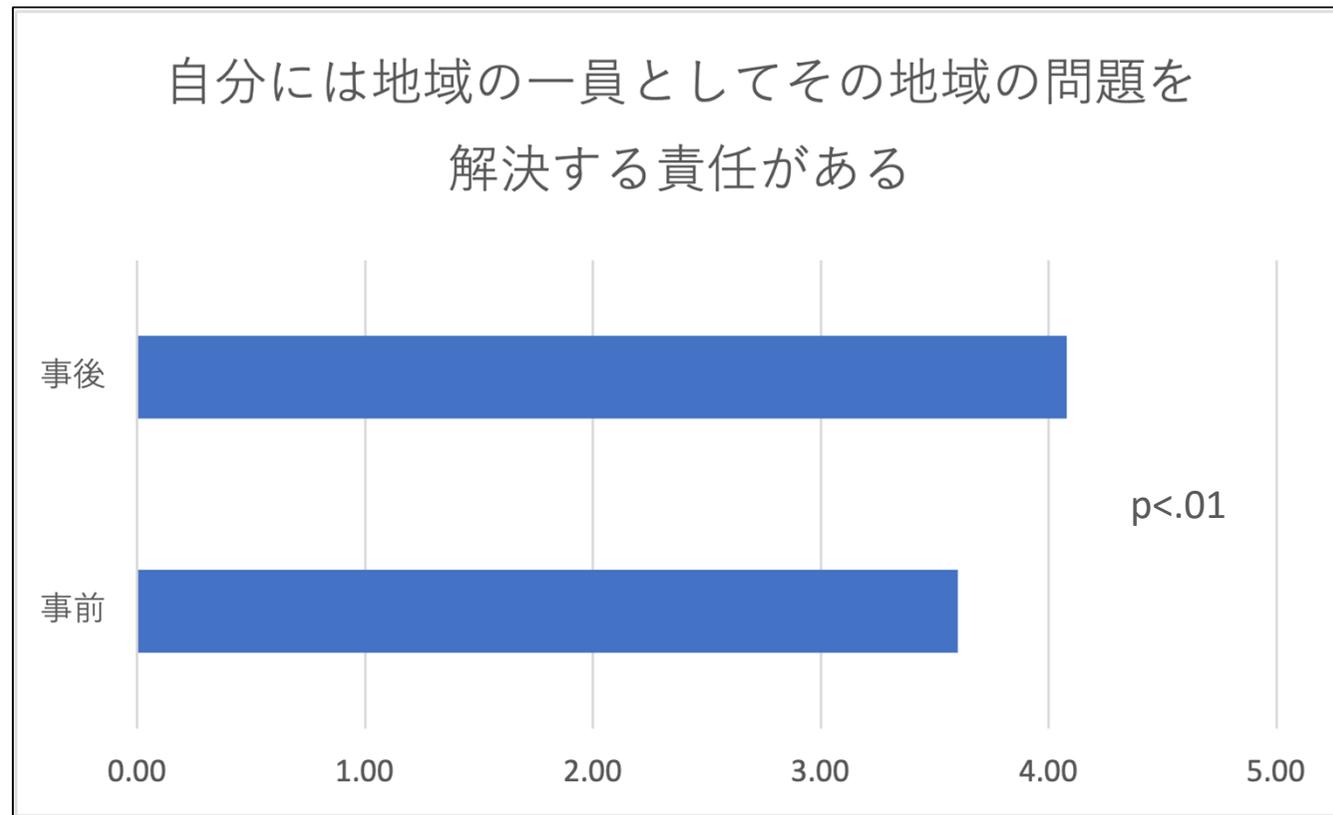
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
参加者	20	23	20	15		13
ボラ保護者	27	30	27	23		11



アンケート分析の結果抜粋（保護者、ボラ）



アンケート分析の結果抜粋（保護者、ボラ）



ドッチビークラブオンライン教室の様子



まとめ（次年度への展望）

- ・近隣大学のボランティアセンターへ連絡・依頼

→コロナ禍で活動や派遣の制限があり、ボラ派遣実現に至らず。対策が必要。

- ・障害者スポーツ指導者協会HPに事業についてリンクを依頼

→指導員の有資格者が1名登録。他のボラへ現場で指導をして下さった。

- ・交流経験のある卒業生、附属学校生徒が定期的に参加

→在学中の交流経験が理由／在學生は本事業の経験が進路変更へつながる。

- ・社協ボラセンターへ連絡・依頼により、区内高校生徒9名のボラ参加実現(12月卓球)

→高校のボラ活動担当者と、次年度以降の定期的な活動場所にすることを検討。

- ・コロナ禍でも活動を継続する方法として、オンラインスポーツ教室の実施。

→制限のある状況下でも、プロジェクトへの期待の高さに答える活動の試行。